

第14回 松戸宿坂川

河津桜まつり

2026
3/17(土)・18(日)
午前11時～
午後4時 荒天中止

会場／春雨橋親水広場から レンガ橋にかけての坂川沿道

- ・早咲きの河津桜とともに早春の水辺の散策をお楽しみ下さい。
- ・会場では、屋台出店や各種催し物を予定しています。
- ・感染症拡大防止に向けた取組みをしています。ご理解・ご協力をお願い致します。
- ・会場内では「食べ歩き」をご遠慮ください。

2/21(土)～3/22(日) 予定

夜間ライトアップを行います

同時開催 矢切ねぎまつり

松戸名産! 矢切ねぎ限定3,000本! 売切御免!

矢切の畑から採れたての泥付ネギの即売会です。

お持ち帰りできます!!

さくらまつり謝恩セール OK

2/14(土)～3/8(日)協賛店と会場内でスタンプラリーを開催!!

旧水戸街道松戸宿の商店街各店が自慢の商品をオススメ!

少々レトロなお店にはデパートにもスーパーにも無い品物が見つかりますよ。

野点(のだて)

桜の下で楽しむお茶会。
どなたもお気軽に茶道との出会いを
お楽しみください(参加実費)



将軍珈琲

最後の将軍、徳川慶喜が楽しんだとされる
フランス風コーヒーを
松戸名物「将軍ラスク」と共にご賞味下さい
(協力:(株)サザコーヒー)



春雨橋親水広場では
「坂川ながるるプロジェクト」との
コラボイベントが開催されます!
お楽しみに!!

戸定さくら雛

展示期間／2/24(火)～3/8(日)

展示場所／戸定邸表座敷棟

ふすまと障子が入った座敷で、向春の趣をお楽しみ下さい。

戸定邸入館料(一般)250円、共通入館料(一般)320円

戸定歴史館入館料(一般)150円



主催／松戸宿坂川河津桜まつり実行委員会・松戸宿商業振興連合会・坂川とまちづくり市民の会

後援／松戸市、松戸商工会議所、(一社)松戸市観光協会 協力／戸定歴史館

お問い合わせ／実行委員会事務局 TEL 047-362-5356(水曜定休)

ご案内WEBサイト

<https://matsudosyuku.net/>

デザイン協力：高山ベン <http://ben-jp.com>



第14回 松戸宿坂川

河津桜まつり

2026年 3/7(土)・8(日) 荒天中止

松戸郵便局

松戸宿本陣跡

旧松戸宿の坂川沿道に皆さんで植えた河津桜が成長し、早咲きの花を楽しませてくれるようになりました。地元商店会や地域団体有志で始めた「松戸宿坂川河津桜まつり」も今回14回目。美しい自然環境が残るふるさと松戸の街で、子どもからお年寄りまで、みんなの出会いと交流を深めて、この街に元気な花を咲かせましょう。

濃い色の道路は開催当日10時～17時
車両通行止めのためご協力ください。



春雨橋

春雨橋
親水広場

同時開催
イベント
会場

まつど坂川
花いっぱいPRキャラクター
「さくらちゃん」です
「みんなで育てる坂川桜、
みんなで見守る松戸っ子」
をイメージしました。

旧水戸街道

京葉
銀行

飲食場所・屋台出店

屋台出店

坂川

セブン
イレブン

富吉

屋台出店・將軍珈琲

本部・ネギ販売

野点

飲食場所

レンガ橋

午前11時～午後4時



慈眼寺

松龍寺

危険ですので
横断歩道を
ご通行ください

松戸神社

WC

神田川

松先稲荷

キテミテ
マツド

J R 常磐線

「あなたも慶喜気分」
徳川慶喜公がここで写真撮影
(案内板あり)

戸定邸・戸定歴史館

戸定みその坂

神社・寺院の境内・参道での飲食や
会場内での「食べ歩き」はご遠慮ください。

市民会館

松戸駅 →

松戸市戸定歴史館

入館 9:30～16:30(閉館17:00)
月曜休館(休日の場合は翌平日休館)
戸定歴史館入館料 (一般) 150円
※戸定邸入館料 (一般) 250円
共通入館料 (一般) 320円

2/14～5/31開催中

「お初にお目にかかります
一大集合!初めて展示される資料たち—」

江戸時代は宿場と舟運で大いに栄えた松戸宿。明治維新も進んで旅籠屋も船頭さんも行く末を考えていた明治17年(1884)、最後の將軍慶喜公の弟、昭武さんが戸定が丘にお屋敷を建てました。地元では戸定が丘と徳川家の人々に親しみを込めて「水戸様」と呼びました。水戸様の足許に鉄道(常磐線)が開通したのは明治29年(1896)のこと、お出入りの商人たちは出来たての珍しい踏切を渡って戸定が丘に通いました。

汽車と並んで流れる坂川は水害を防ごうと先人達が命がけで掘り進めた川。それでも水害が治まるようになったのは明治になってからのことでした。小山樋門(レンガ橋)も治水工事の一環で明治31年(1898)に造られました。

その頃、趣味の写真を始めた昭武さんは坂川の風景もカメラに収めています。兄の慶喜公と角町で立体写真を撮ったのが明治38年(1905)のこと。昭武さんのおかげで今の私たちはこの街の原風景を発見することができました。